

ホットなフォト



「みらい」での出張販売



損保ジャパンの贈呈式



7月実施のアシスタント研修会



八木橋(24時間テレビチャリティーバザー)

職員紹介

★ 橋本 佳代子 8月よりパート職員になりました。「鴻巣在住です。ちっちゃくて、まるっこくて、松葉杖を両杖使用しています。可愛がってください。」

第1期共生ゼミ今後の予定

多くの皆様の参加をお待ちしています。(お問い合わせはひこうせん事務局まで)

9月19日(日) 14時～16時	就労支援センター	於 みずしろ
10月17日(日) 14時～16時	バリアフリーウォッチング	於 行田商工センター
11月21日(日) 14時～16時	二重学籍	於 みずしろ

編集後記

早いもので「ひこうせん通信」も第3号を数えるまでになりました。ここに至るまでの道のりも、試行錯誤の連続で、広報委員会での場首会談などを経て失敗を重ねながらきましたが、最近の新聞に「失敗学」という記事が出ていました。

これは、東大の畑村洋太郎教授の提唱する失敗学はく失敗を生かす第一段階は結果から原因をだどる逆演算である。>との説であります。私達もこの逆演算を行いながら、ひこうせん通信もなんとか会報らしくなってきました。

今年の、この暑さを乗り越えて、また次号への作業が始まります。更に工夫を加えて皆様のお手元に届けたいと頑張っております。

<渡辺 功三>

ひこうせん通信

第3号

2004年9月1日発行



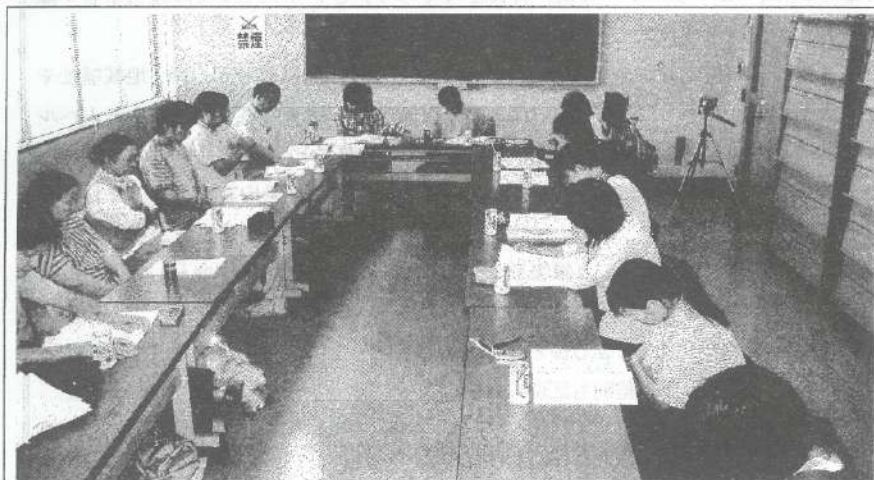
編集・発行：ひこうせんグループ設立準備会

住所：〒361-0023 埼玉県東行田市長野4-17-13

(ひまわりおもちゃ図書館内)

電話・FAX：048-559-0277

E-Mail：hg-pag@amber.plala.or.jp



設立総会の様子

ごあいさつ

CIL ひこうせん理事長 木村 浩章

去る6月20日に「NPO 法人 CIL ひこうせん」の設立総会を開催しました。当日は19名全員の会員にご参加いただきました。そして、6月24日に埼玉県へ設立申請を行い、9月中には認可が下りる予定になっています。

昨年の12月に「ひこうせんグループ設立準備会」として活動を始め、当初計画していた事業が予定通りに進行しています。これもひとえに準備会の委員をはじめ、多くの皆様のご協力の賜と深く感謝しております。

これからのNPO 法人設立後の事業としては、まずは10月には「バリアフリーウォッチング」、12月には「シンポジウム」という二つのイベントを企画しています。又、来年の4月に「生活ホーム」を開所する予定です。このためより多くの皆様のご支援やご協力が必要です。私たちの事業に少しでも興味や関心がありましたら、ぜひ一緒にこの「ひこうせんグループ」を組織する「パーソナルアシスタントぎょうだ」及び「NPO 法人 CIL ひこうせん」、「ひまわりおもちゃ図書館」の活動に加わってください。

よろしくお祈りします。

ひこうせんイベントについて

ひこうせんでは、10月に「バリアフリーウォッチング」、12月には「シンポジウム」という二つのイベントを企画しています。

まず、バリアフリーウォッチングは、観光スポットのバリアフリーチェックを中心にそれぞれの参加者の視点から感じた行田の街を見直す催しです。

シンポジウムは、「ボーダーレスの街・行田をつくろう」というテーマで障害当事者や障害児の親、地域の代表者を交えて討論する催しです。

これまでの障害者施策は施設中心でしたが、1981年の国際障害者年以降、地域福祉や在宅福祉へと転換し、2003年4月から従来の措置制度から障害当事者が自らホームヘルプサービス等の事業者や施設を選ぶ支援費制度に移行し本格的に在宅福祉重視の施策になりました。街づくりについては、まちづくりに関する法律や埼玉県の施策としてまちづくり条例などが出来てきました。これらの法律や施策によって、以前より障害者が街に気軽に出入れるようになりました。しかし、障害者の生活は、まだまだ支援費制度としても、街づくりにしても障害当事者が満足いくものではない現実があります。

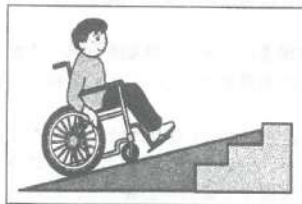
私たちひこうせんグループが考える街とは、障害があろうとなかろうと自ら生活を選び、自由に自ら行きたい所に行け、差別も区別もない、まさにボーダーレスの街です。

そのためには、まず多くの皆様にご理解とご支援が必要と考えこの二つのイベントを企画しました。

これに併せて、このイベントをより多くの皆様に関わっていただくために準備段階からいろいろな立場の方々に呼びかけ実行委員会形式で準備を進めています。そして、そのことが地域のネットワークの足がかりになれば幸いと考えています。

なお、これらのイベントは、毎年恒例行事として開催する予定です。

<木村 浩章>



「NPO法人 CILひこうせん」設立記念イベント企画・実施について

この秋には、「NPO法人 CILひこうせん」が晴れて飛び立つ運びとなりました。

この設立記念行事と致しまして二つのイベントを企画しております。

一つ目は、10月17日(日)に実施の「バリアフリーウォッチング」です。

この「バリアフリーウォッチング」行事は、行田の街が障害の有無や年齢を問わず全ての人々が住みやすく、活気あふれる街に生まれ変わるまで続ける年中行事として毎年テーマを決めて実施してまいります。

第1回のウォッチング場所は、何と言っても行田市の目玉である観光スポットです。

二つ目は、12月19日(日)に実施の「ボーダーレスの街ぎょうだをつくるシンポジウム」です。このシンポジウムのパネリストには、全国的に活躍してきた障害者団体の元代表者、近隣で活躍しているNPO法人の代表者、青年会議所の代表者、地元で活躍している障害者を持つ親の方々です。市役所の福祉部長にはコメンテーターとして参加を頂きます。

コーディネーターは、「NPO法人 CILひこうせん」理事長の木村浩章です。

このイベントの企画・推進は、CILひこうせんイベント実行委員会が行います。

実行委員会のメンバーは、ひこうせんグループ以外からも幅広く参画して頂いています。

大学や高校のボランティア、青年会議所メンバー、ボランティア団体協議会メンバー、アシスタント(登録ヘルパー)など様々ですが、企画段階から参加頂き全員の手作りで計画を進めていくところに特徴があります。

また、縮小メンバーによる事務局会議も要所で開催して委員会をサポートしております。

「バリアフリーウォッチング」コースの下見の下見では、行田市の地理や歴史に明るく、副実行委員長でもある永島宏章氏の案内で、楽しく効果的に回ってきました。

次に、永島宏章氏のコメントを紹介いたします。

<イベント実行委員長 村澤 洋>

◇永島宏章氏コメント 『ひこうせんグループに参加して』

私は初めて活動に参加して、何も知らなくて恥ずかしかった反面、人生の視野が広がって、嬉しい気がしました。数年前に私の所属している社団法人行田青年会議所の事業で、障害者体験学習や、田島隆宏さんのお話を聞いた事がありました。しかし、我々は継続的に係わり合いをもつ事がなかったのです。

今回企画しているバリアフリーウォッチングで観光スポットの下見に事務局の皆さんと出掛けた際、水城公園、城址公園、新兵衛地蔵など私の足では簡単に行ってしまう所でも、車椅子の木村さんには段差が大きく、柵もあり、トイレも整備されておらず大変なんだと実感しました。

活動に係わっていく中で、色々な障害者の方がいらっしゃる事を知りました。そして、障害者の人達に住みよい町、もっと住民の方々と共生できる町になる様に、私は今まで培ったイベントのノウハウとネットワークを生かして出来る限り協力していこうと思います。

派遣委員会

派遣委員会は、毎月第4金曜日に開催しております。内容は、派遣サービス事業に係わる主要な取り決め事項を審議して実行に移します。

あくまでも利用者様にご満足のいくサービスを、タイムリーに効率よく進めることに主眼をおいて審議しております。

最近の審議事項は、医療行為に係わる取り決め事項、利用者の集金方法見直し、職員・アシスタントの車使用に伴う交通費請求様式の決定などがありました。

今、頭の痛い課題が一つあります。それは、介助派遣サービス事業に不可欠なリフトカーが無い事です。幸いに、今までにいろんな助成申込みを担当してことごとく当選している女神様がおりますので、今回も日本財団や24時間テレビ等に申し込んで頂いていますが、女神様今回も当選しますことを宜しく御願い致します。

7月から始めましたアシスタント採用時研修は、8月末で3回の実施となりますが、12名の方が受講修了予定です。

新規アシスタント登録者や未受講者のために、9月にも2回の計画を組んでおります。

アシスタントの登録人数は、8月20日現在で33名となりました。まだまだ不足状態につき多方面に募集をかけていますが、お知り合いの方へのご紹介もお願いします。

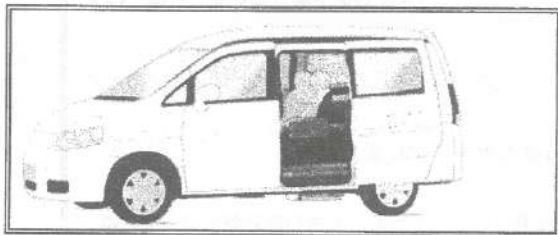
介助派遣サービスのご利用者総数は、8月20日現在で27名となりました。

その内、レスパイトのみのご利用者数が14名と過半数を占めているのが特徴です。

7月1日付けで、介護保険法に規定する「指定居宅サービス事業者」として指定を受けることができました。現在行っている事業に支障をきたさない範囲で、ご利用者のご希望にそって徐々に始めていく予定です。

このことにより、介助派遣サービス事業の幅が広がりますが、ひこうせんグループの名に恥じない様なサービスを提供して行くことが最大の使命です。

<村澤 洋>



女神様の贈り物は
こんな車両かも？

NPO委員会

6月20日(日)に行田市コミュニティーセンターみずしろに於いて、「NPO法人C I Lひこうせん」の設立総会を開催しました。その後、6月24日に埼玉県に関係書類を添えてNPO法人設立申請を行いました。

9月中に埼玉県から、この法人の認証が下りる予定です。

NPO法人設立資金として、損保ジャパン記念財団から30万円の助成金を頂きました。

その贈呈式が東京・新宿の損保ジャパン本社ビルで7月7日に行われ、木村と齋藤が参加しました。

今後は、下記の理事・監事が中心になってC I Lひこうせんの運営にあたります。

理事長 木村 浩章 理事 齋藤 貴美子 村澤 洋 増田 喜代子 杉浦 英俊

竹田 満喜子 監事 渡辺 功三 田口 好恵

よろしく御願い致します。

<木村 浩章>

なかまの家委員会

なかまの家委員会では、5月から入居希望者の呼びかけと県内の数ヶ所の生活ホームを見学に行きました。

そして、数人の入居希望者がおり、6月からの委員会から入居希望者や生活ホームに関心がある人を含めて、生活費の試算や職員体制、設備についてなどの具体的な検討をしています。

今後、来年4月の開所をめざして、入居者及び職員の決定、建物の建築など、より具体的な準備に入ります。

このなかまの家に興味がある方は、ぜひ、ひこうせん事務局までご連絡ください。

<木村 浩章>

資金づくり委員会

7月の売り上げの収入源としては、

- ・ 資源ゴミ売り上げ
資源ゴミ回収と整理で、行田市斎場の許可を得てアルミ缶回収を行っています。
- ・ リサイクルショップ(くれよん)販売
- ・ バザー出店
埼玉土建住宅デイ及び八木橋(24時間テレビチャリティーバザー)に出店し販売をしました。
- ・ 冷凍ケーキ販売
新しい取り組みとして、スワンの冷凍ケーキの注文販売を始めてみました。
後日、取り寄せて皆で味見をする予定です。

<増田 喜代子>



広報委員会

今月号から、強力な助っ人として橋本さんに広報委員に加わっていただき、更に強力な布陣で「ひこうせん通信」を編集していくことが出来るようになりました。

内心、私もすこしは手が抜けるかな?などと不埒なことを思いながら、でも大いに期待しております。

これからの会報には今後計画されている「バリアフリーウォッチング」、「シンポジウム」の両イベントを同実行委員会と協力しながらお知らせしていこうと考えています。

また、「ひこうせん」のホームページを出来るだけ早期に立ち上げたいと、検討しておりますが、これも、出来るだけ多くの方々に見ていただけるよう、アクセス数を増やせるようなく見て参考になる。見やすいページ構成などを工夫しながら作らなければと悪戦苦闘しております。

皆様からの要望とかアイデアがありましたら、是非お知らせ下さい。

これからは「ひこうせん」の広報の二本柱として確立させていきたいと考えておりますので、よろしく御願いいたします。

<渡辺 功三>

People's Voice

NPO法人あん理事長沖田氏インタビュー 質問者 木村



木村: 沖田さんが自立生活を始めて何年になりますか?

沖田: 16年です。施設には8歳~12歳まで寄居の埼玉療育園に入っていて、その後は実家にいました。35歳から4年間、当時は自力で車椅子で出かけることもできたので自立生活をしましたが、体を悪くして実家に戻り7、8年くらいいましたが、このままでは施設に入るしかないと思い、6年前から介助体制を作って今に至っています。24時間体制の介助が必要なため、自分でピラ配りをしたり、新聞にピラを入れてもらったりしてボランティアを募集しました。

木村: 今の介助体制の人員は十分足りていますか?

沖田: 率直に言って、泊まりの人が少ないです。(支援費制度だと)資格にある人に限られてしまうので...

木村: 支援費はどのくらいの時間が出ていますか?

沖田: 日常生活で月630時間です。

木村: 今はボランティアはいないのですか?

沖田: 生活保護の(他人介護加算の)大臣承認を受けて月18万円あり、(無償)ボランティアはいないが、7~8人の有償ボランティアにあてています。

木村: 沖田さんに来ているヘルパーは何人ですか?

沖田: 社協から月~金まで毎日1人、後は<あん>の方から1日に4、5人の派遣を受けています。

木村: 来年3月でみなし資格は切れますが、養成機関を作るつもりはありますか?

沖田: 考え中です。

木村: NPO法人あんの名前の由来は?

沖田: あいうえおの「あ」から「ん」までの全てを含むという意味です。

木村: 今、支援費と介護保険の統合問題がありますが、沖田さんはどうお思いますか?

沖田: 反対です。目的が違うので。介護保険は家族を助けるため、障害者が生きていくには支援費が必要です。

木村: 最後の質問です。<ひこうせん>はボーダーレスな社会を目指して活動をやり始めましたが、沖田さんにとって、これからの社会はどのような社会になるのがよいと思いますか?

沖田: 誰もが自由に生きていける社会になることです。障害者、健常者も関係なく自由に生きられる社会になればいい。そのためには、健常者が障害者に自由を分けていってほしい。(要するに、お互いに認め合う社会を目指すという意味で)。

木村: ありがとうございました。

沖田さんは12月のシンポジウムのパネリストとして参加してください。

利用者の声

増田裕美です。19歳です。仙台のいずみ養護学校専攻科2年です。来年の3月には卒業して行田に帰ってきます。春休みからレスパイトと支援費を使い、熊谷のカラオケや大宮の買い物に行ったり、モデルルームを見に行ったり、行田の火祭りやプールに行ったりしています。他には、病院の付添いもお願いしました。料理もしましたよ。カラオケでは6時間歌いまくりました。いろいろ出かけることができて楽しかったです。火祭りは勢いがあったすごかった!

今度コンサートやライブに行ってみたいなあ。芸能人に会いたいなあ。

<増田 ひろみ>

アシスタントの声 『介助を通して学んだこと』

こんにちは、鈴木優希(27歳・男)です。私が介助派遣を始めたきっかけは、3年前に地元の熊谷市で介助派遣をしたことでした。

介助の知識がなく、全くの素人の状態だったので、介助をしながら当事者である肢体不自由の方々から教えていただきながら覚えていきました。そこでは一年間活動し、その後二年間、岩手の中学校へ講師として赴任したので、二年間現場を離れていました。

今春、熊谷へ戻り、ひこうせんグループの存在を知り、再び介助アシスタントとして介助現場に入ることができました。五月に登録してから多くの方々とお会いするようになりました。そして、障害のある方たちの屈託のない笑顔を見ては元気をもらっています。

介助派遣をするようになって、障害のある方々から多くのことを学んでいます。初めはどのように接したらいいのかすらわかりませんでした。手助けしようと思っても、怖くて声を出せませんでした。でも、勇気を出して声を掛けると、案外気持ちよく返事をもらえることに気がきました。断られる不安より、素直に嬉しい気持ちになるのが快感になりました。そして、声掛けは挨拶みたいなもので、全く気負う必要なんてないことに気がきました。もう一つ学んだことは共感することの大切さ。「同情」ではなく、「共感」すること。相手の立場を考え、共に笑い、共に悲しみ、共に怒り、共に悩んで、共に学びあう。そうして、生きるということを共に感じているんだなあ、と思っています。

宮澤賢治の手帳の中に「雨ニモ負ケズ」という詩があります。その中で、「ミナニデクノポートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ サウイフモノニ ワタシハナリタイ」という部分が大好きです。私も元来不器用で、要領が悪いのですが、無理をせず、自分らしく生きていきたいです。あくまでも人間臭く、多くの人たちと関わりたい、学び合うために、アシスタントを続けていきたいです。みなさん、これからもよろしくお願ひします。

<鈴木 優希>

視点・論点・共生点

年金法の改正について国会で審議されていますが、一度成立した法律を廃案にすることは困難なようです。国会議員を選挙で選出する間接民主主義ではどうしても直接の国民の声は反映しづらいものです。日本も民主主義が国家のあり方として一定程度の定着をしてきているのだから、このあたりで政治にもっと直接的な国民の意思が反映される方法を取り入れてみたらどうでしょう。国を形作っているのは一人ひとりの国民であり、私たちなのです。

もっと身近なことで考えてみれば、とどのつまりは、税金の使い道です。何にどう使った方がいいのか、について国民はもっと主張してもいいはずですが、この間の官庁の不祥事は国民にも申す必要を自覚させてくれましたが、かといって使い道にダイレクトに国民の主張が通るわけではありません。市政にしても同様です。無難な予算がまかり通り、新しいことにはなかなか踏み込めません。根本的な見直し、組み替えをする勇気が求められています。そのためには、必要を感じる者が主張しなければ何も変わりません。当事者の声は今、何よりも大事になってきているのです。

<斉藤 貴美子>